

令和5年度第2回富谷市介護保険運営委員会 会議録

～ 委員会概要 ～

日 時 令和5年9月22日（金） 午後2時00分～午後3時35分

場 所 富谷市役所3階 305会議室

出席委員（16名） 那須 正行、大和 道功、笠原 純子、安齋 由貴子、渡邊 裕志、
中谷 良子、大神 健一、大澤 政人、関 克彦、斎藤 翔、平岡 政子、
永野 憲子、佐藤 恵子、増田 恵美子、内ヶ崎 清子、菅原 義則

欠席委員（2名） 志水 田鶴子、佐藤 一夫

会議に参加したる者 市長 若生 裕俊

事務局出席者（7名）

○保健福祉部 部長 狩野 悦子、長寿福祉課長 横田 善和、課長補佐 奥山 晴基、
保健福祉総合支援センター所長 大谷 江里子、副所長 伊東 大助、
主任技術主査 高橋 侑美、社会福祉士 後藤 雄一

午後2時

< 開会 > 司会進行 長寿福祉課長

< あいさつ > 富谷市介護保険運営委員会 委員長 那須 正行
富谷市長 若生 裕俊

（横田課長） それでは審議の方に入りたいと思いますが、進行につきましては規則に基づき
委員長が議長となりますので、那須委員長に議長をお願いしたいと思います。

（那須委員長） 議事を進行するにあたり、委員の皆様の活発なご意見をご期待いたしますと
ともに、議事進行につきましてご協力をお願いいたします。それでは審議に入ります。

（1）富谷市高齢者保健福祉計画第8期介護保険事業計画の達成状況について、事務局
から説明をお願いいたします。

（伊東副所長） <協議事項（1）富谷市高齢者保健福祉計画第8期介護保険事業計画の達成状況
について（令和4年度高齢者保健福祉事業実績、令和5年度計画について）>

（那須委員長） 只今の事務局の説明につきまして、委員の皆さまから、ご質問等ございまし
たらお願いいたします。

（斎藤委員） 1ページ、サロン型通所サービスで参加人数の分析部分の「通所手段の対応を改
善するため、ボランティアの確保を実施」について、通所手段は、ボランティアさん
の関わりはなく、コース増設の際は協力ボランティアを増やすというような形かなと
認識してたんですけども、内容の確認をお願いします。

(大谷所長) 通所手段に対して課題があるってということが一つと、ボランティアさんの確保、実施していただくってところの二本立てでコースを増設予定のところ、ご指摘の通り、文脈がおかしいかなってところがあり大変失礼いたしました。

通所手段に関しては交通網が行きわたらないところに関して、課題を抱えているところがございましたので、委託先である社会福祉協議会と相談しながら、市民バスが行き届かない地域の方に送迎を回すとか、バス停まで遠い対象者の方などへの定点送迎なども含めて、具体的に検討している段階でございます。

なお今年度中に通所の手段を見直しをかけ、今2コースであるんですが、3コースに増やしていただいてというところで、増設を目指しているところでございました。

(齋藤委員) ありがとうございます。

(那須委員長) 他にございませんでしょうか。

(内ヶ崎委員) 3ページ、どんぐりの森活動数、申請団体は19ヶ所で活動実数は24ヶ所の記載がありますけども、この差異について原因はなんでしょう。

(大谷所長) コロナ禍で活動が休止だったり、お休みされていたというところで、補助金をいただかなくても活動できそうだとということで、実働としては24ヶ所実施しているということでございます。活動が盛んになれば、おそらく来年度は24団体の方が補助金のご申請の方に入るのかなってところでとらえておりました。

(内ヶ崎委員) そうすると今は補助金の申請は19団体で補助金が交付されているというふうに理解していいですか。

(大谷所長) そのような理解でお願いしたいと思います。

(内ヶ崎委員) 条件としては、ボランティア活動年度会費とかがありましたよね。それでコロナ禍で、確か6回のボランティア活動はできないというようなことで、その数字が減ったと認識してたんですがよろしいでしょうか。

(大谷所長) 資料がありませんので詳しくお答えできませんが、規約があったり、コロナ禍で、活動がちょっと中止したり休止したりと補助金をいただかなくても、活動が出来るということでございますので、今後は活動が活発化されていくとともに、申請される団体さんも24ヶ所に近づいてくるのかなというふうに捉えております。

(内ヶ崎委員) もう一つ地区敬老祝い事業なんですけど、今年はおかげさまでその事業形態を戻して地域のコミュニティ事業の一助として、助成金をいただいたということで、うちの方の町内会も、先日敬老会を実施いたしました。ただ参加者が減ってましたね。3年間しなかったんですけども、3年前あたりは50人とかいたんですけど、先日は、そうですね。35名ぐらいかな、減ってました。

敬老祝い金ですと、前は、市から3,000円ずついただけてますが、いろんな条件で

不参加っていう人には、3,000円は行かないんです。ただ、やっぱりこういうのはコミュニティの場であって、面倒くさいからやめていくってということがますます進んでいくんであっては、そのこと自体が危惧されるかなと心配しております。

(大谷所長) 委員おっしゃいますように、確かにそうとおりで、コロナ禍明けということで、町内会さんによって、それぞれの取り組みをっていうところになっているところでした。こちらの事業やコミュニティの醸成に関しては少し町内会さんの意見とかも具体的に伺いながら、今後どうしていったらいいかっていうところを含めてちょっと検討を図っていきたいなと思っていますところでは。

(那須委員長) どうもありがとうございました。その他ございませんでしょうか。

(那須委員長) それでは続きまして、2番目の富谷市高齢者保健福祉計画第9期介護保険事業計画の骨子案につきまして、事務局から説明をお願いします。

(奥山補佐) <資料2 富谷市高齢者保健福祉計画第9期介護保険事業計画骨子案について>

(那須委員長) 只今の事務局の説明につきまして、ご質問等ございましたらお願いいたします。また、全体を通じてでもよろしいですので、ご意見いただければと思います。

(斎藤委員) 資料1、評価の達成度について、2ページ、ゆとりすとサロンクラブ、元年の数字が22ヶ所あって目標指数は25で23ヶ所、1ヶ所増えてというところで、人数からさらに何件か増やすってなると、変動が少なくても、ほぼ達成度が良くできたという評価になってしまうのかなと思いましたが、指標の仕方を変えたほうがよろしいのかなと感じております。

3ページ、どんぐりの森活動で主に24ヶ所、25ヶ所に変動なしの24ヶ所になっていても、達成状況としては良くできたという評価になってしまうので、こちらも表記を検討した方が、9期以降、評価しやすいのかなと思っています点でした。

別紙1、事業体系5番の認知症施策の推進の②認知症カフェの開設、★だと新規事業になると思うんですが、8期計画にも認知症カフェの開設という項目はあるので、新規事業ではないんじゃないかなと思いましたがの確認の質問でした。

(横田課長) まず評価指数の考え方につきましてご回答させていただきたいと思います。施策に対する目標指数については、国・県の方における考え方に踏襲しておりますので、若干乖離というか、ずれが生じてる部分があるのかなと思います。

なお、9期計画につきまして全事業、目標指標についても見直しをかけておりますので、具体的には次回の委員会におきまして、素案ということで、細かい施策を載せさせていただきますので、その際に改めて委員の皆様からご意見を伺うという形で進めていきたいと思っておりますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。

(大谷所長) 認知症カフェの開設に関しては 8 期計画で新規事業として載っておりました。

こちらは今各地域包括支援センターで持っておりますので○のままとなります。大変失礼いたしました。

(斎藤委員) ありがとうございます。

(那須委員長) その他ございませんでしょうか。

(佐藤委員) 介護を受けたいときにどこに行けばいいんだろうということで、地域包括支援センターのことがわからないという声を、最近、耳にすることが多かったんですね。資料 1、7 ページにも認知度が 3 割ということで、いろいろと困ってる時に、どこにご相談に行けばいい、市役所に行けばいいのかって言うことが聞かれたものですから、どのように啓蒙するかっていうことが大きいのかなと思います。

資料 2 の 38 ページ、地域包括支援センターでの案内や広報はもちろんのこと、インターネット等の情報網を有効に活用します、ということで表記されていますけれども、逆にインターネットや SNS などをご使用いただいても、どこにどのようになっていのがかえって混乱の元になって、高齢になりますと SNS とかで情報を得るっていうのはなかなか苦手なものですから、どんなふうにして、介護を受けるような生活ができるようになるかっていうことをもっと具体的に広報していただく方向っていうのも、ご検討いただけたら嬉しいかなと思います。

(那須委員長) 貴重なご意見ありがとうございます。

(永野委員) 私主任児童委員をしております、包括支援センターの方たちとも結構、会議でお話ししておりますが、その時にやっぱり認知度という話は結構取り上げられおり、包括支援センターで集まりを設けて、告知はしているんですよ、紙も届いている。町内会にも回ってて、皆さん目は通されているんですけど、多分その広報の仕方がインパクトがないのか、あらゆるところからそういう発信をしていかないと SNS は、まずあんまり期待できないと思うので、地道な手作業って言うか、町内会、回覧版、広報誌から始め、あらゆるところから目に触れるよう、みんなが理解できるような方法で発信していかないと、根づいていかないんじゃないかなあと思いました。

(那須委員長) はい、ありがとうございます。私は民生委員をやらせていただきまして、周知させるためにはどうしたらいいかちょっと考えさせられることがあります。そのためには民生委員として、誰からも相談を受けるような、そういう、人格なりを持ってないと相談してもらえないんで、ちょっと考えさせられました。

(大谷所長) ありがとうございます。今回の実態把握調査においては包括支援センターについて、3 割の方が知らないというところで、周知が課題だなというふう感じたところでございます。コロナ禍で、なかなか回覧を回すっていうのも、ちょっと中断したり

ということもございましたので、教室は変わらずやってはいたけれども、知る機会っていうのが無かったかなっていうところもあったかとは思いますが。

また、民生委員さんなどがお宅を回られたり、高齢者の方からちょっとご相談を受けた際には、ぜひ包括の方をお知らせいただきたいなと思ってはおります。お体のこととか、お困りなことがあれば、包括に行けばいいんだねっていうのが本当に繋がっていくように、こちらも包括とどういう形でやっていけばいいかっていうのをちょっと詰めていきたいと思っております。

一方で実態把握調査では、インターネットのご使用に関しては、55%の方が利用はできるっていうようなお答えいただいているところでした。なかなかホームページってなると自分から見に行かない、なので興味がある方が探さないと、たどり着かないっていうところがございますので、私たちはあんまり今まで高齢部門に関しては逆にインターネットをむしろ活用してこないっていう状況がございました。

ただ50%、60%の方が使えるのであれば、市の方でラインとかも持っておりますので、ちょっとこちらの方も積極的に活用していきたいなと思っていたところです。

(那須委員長) はいご意見頂戴しました。その他ご質問ありますでしょうか。

(安齋委員) 二つほどありまして一つ目が新規ということで、福祉事業については一番の方ですね、下を見ても★印が付いていたり、第9期に向けての検討ということで項目がかなり上がっておりますように、ずっとこの計画を見てきた者としては、どんどんと膨らんでいる。

どこもどの部分もそうだと思うんですが特に高齢者、介護保険に関しましては、スタート時点より、どんどんと内容も膨らんでいるなというふうに思いますので、実際にこれを増やすだけっていうのは、きっと担当者の方々にとっても負担になるかになるというか、ますます大変なことになっていくっていうことがあると思いますので、何かこう、新たな機関が増えるとか、ここに人員が費やされる予定があるとか、そういう単なる負担にならずに配当替えをすとか、そういう見通しを持って作っていく必要があるのかなあとと思いますので、今後に向けて、そんなところではどのようにこれを回して行くかっていうあたりを見て、一つお聞かせいただければというふうに思います。

もう一つ目、一つ一つの具体的なものを見ても、地域の住民の方々が、こういう目標に向かってみんなで取り組んでいくっていうことが求められている計画になっていると思うんですね。一方でこの介護保険っていうあたりが、専門の方々にとっても、どんどんサービスが増えてて一般の方にはちょっとわかりにくい計画にもあるんじゃないかなと思いますので、縮小版でもいいのかもしれないんですけども、皆が理解

できるような冊子版なり概要版なりを、作って配っているとか、そういう予定とかを立てていただければというふうに思いました。

(那須委員長) はい、貴重なご意見ありがとうございました。

(横田課長) まず住民向けの周知というようなご意見がございました。委員お話しの通りですね介護保険事業につきましてはかなり細分化されておまして、国の方でも新しいメニューが出てきております。それに職員が対応しきれるかというのは、我々の方でも喫緊の課題でございますので、行政側ができる部分、地域住民の方々と協働してできる部分、住民の方々が自主的に行ける部分ということでその辺をきちんと住み分けをしていく必要があると考えております。事業に関しては、見直しを含め、必要性なものは統一していくとか、廃止するというところも視野に、次の9期計画に向けては考えていきたいと思っております。

二つ目の住民向けのアナウンスというようにお話があったと思うんですけれども、介護保険事業計画の概要版ということで、8ページ両面ぐらいのサイズで、市民の皆様方に每户配布を考えてございます。

(大谷所長) ご意見ありがとうございます。事業に関しては、PDCAでどうあるべきかっていうので議論を重ねております。今後についてはいろんな調査をしたりとか、時代に応じた課題っていうのも変わってきている部分もございますので、先ほど課長の方がお話したように、増やすだけではなくて、見直しを重ねていきたいなというふうに改めて思っております。国としても少子高齢化っていうのはとても課題になっているところで、あと社会保障の方をどういうふうに今後やっていくかっていうのも課題になっているところでございますので、住民の方とやはり一緒になってやっていくというのが、より必要になってくるんだろうなというふうに感じているところです。

(那須委員長) はい、ありがとうございます。それではその他にうつります。事務局から説明をお願いします。

(横田課長) その他ということで事務連絡になりますけれども、次回、第3回の介護保険委員会につきましては第1回でもお示ししておりますが、11月16日(木曜日)午後2時からこの会場で予定してございますので、ご承知おきいただければと思います。詳細につきましては後日連絡いたします。

もう1件、前回の第1回会議で実態把握調査報告書を皆様へご提出させていただきましたけれども、その後に誤植が見つかりましたので、正誤表を載せてございますので、ご確認いただければと思います。大変申し訳ございませんでした。

事務局からの連絡事項は以上になります。

(那須委員長) はいそれでは、審議事項は全て終わりました。それでは事務局に進行をお返

しいたします。

(横田課長) はい。ありがとうございます。本日は達成状況及び骨子案につきまして、委員の皆様から、大変様々のご意見をいただきましてありがとうございます。お戻りになった際からでもお気づきになった点等々ございましたら、ご連絡いただければと思います。

それでは、以上をもちまして、令和5年度の第2回富谷市介護保険運営委員会的一切を終了いたします。長時間にわたりまして委員の皆様、ありがとうございます。

< 閉会 > 15:35